

# 民研部会から

## 音楽部会

小林 優

## あなたも民研音楽部会に

— 1年間の活動を振り返って —

音楽部会は昨年、5回の部会・公開授業と公開保育・公開講座を行いました。

6月には、府中市立住吉小6年担任四谷悦子さんが、作曲家の丸山亜季さんをお迎えして、リズムと歌で2時間続きの公開授業を行いました。群馬・埼玉の保育士さんたちも来てくださり、ダイナミックなリズムやさりげないフォローなどで、子どもたちと一緒にリズム表現をしてくれました。また、アイヌの美しい衣装を着ての「弓の踊り」はすばらしいものでした。子どもたちはだんだん積極的にリズムに入っていく、歌も歌詞の内容を捉え、歌の世界を生き生きと表現していました。

2月の公開保育では東大駒場地区保育所3歳児担任の小笠原和美さんが、群馬つくしんぼ保育園の小林扶美子さんを講師にお迎えし、つくしんぼ保育園の高木由佳理さんが一緒に入って、東京では初

めての公開保育が行われました。小林扶美子さんから「リズムの時間だからリズムをやるのではなく、心の動きがリズムになって出てくるように」「やれそうないにする。その気になった時にほめる。それがその子の自信になり、その子の力になる」というお話をしていただきました。小笠原さんは「子どもたちが気持ちよく体を動かしたくなるリズムをするためには、イメージが大事だということ。曲の速さや音の響きの変化で、子どもたちに伝えること」を学んだようです。保育士さんや年長さんに憧れて、子どもたちが自ら表現しようとする姿がたくさん見られました。保育所全体でしっかり学び合っこの日を迎えたことがよく分かる公開保育でした。

公開講座は9月にピアニストの志村泉さんをお迎えして、林光作曲カンタータ「脱出」を歌う会が行われました。カン

タータ「脱出」は戦時中に中国から強制連行された農民の実話を基につくられた感動的な歌です。歌い続け、伝え続けていきたい、大事な歌だという思いを強くしました。

2月には目黒第九中学校の美術の先生宮川義弘さんを講師にお迎えして、『自画像』を柱とする『中学校の美術教育』というテーマで行われました。「芸術における価値を支えているのは、誠実さであることに気づかせる」というお話から始まり、たくさんすばらしい生徒作品を見せていただきながらお話しいただきました。美術教育は「人として育つ」のに不可欠な芸術教科として音楽と共通するところが、学ぶところがたくさんある感動的な実践を、作品を通して話していただきました。

また、東京教研や民教連の全体会で「生命の木、空へ」より「敗戦の子ども」などを音楽部会の有志多数で歌うことができました。

今年6月21日(金)江東区香取小特別支援学級の富澤ひろみさんが作曲家の丸山亜季さんをお迎えして公開授業を行います。ぜひご参加ください。

(武蔵村山・四中)